

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和 7 年度 9 月号

○ 概要

- (1) 令和 7 年度 9 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は 7,179 億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+7.4%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 9,937 円（伸び率+4.8%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,929 億円（伸び率+6.2%）、薬剤料が 5,235 億円（伸び率+7.9%）、薬剤料のうち、後発医薬品が 948 億円（伸び率+4.6%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,579 円（伸び率+4.1%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、1 種類当たり投薬日数、1 種類 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.79 種類（伸び率+0.0%）、28.6 日（伸び率+3.0%）、70 円（伸び率+1.1%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料 4,030 億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+251 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 39 その他の代謝性医薬品の 766 億円（伸び幅+37 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+73 億円（総額 577 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,030 億円 (+251 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(766 億円)	42 腫瘍用薬 (577 億円)	21 循環器官用薬 (577 億円)
0 歳以上 5 歳未満	16.6 億円 (▲1.6 億円)	44 アレルギー用薬 (4.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.2 億円)	61 抗生物質製剤 (2.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	97.3 億円 (+2.2 億円)	44 アレルギー用薬 (29.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (28.3 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(8.2 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,519 億円 (+101 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(291 億円)	11 中枢神経系用薬 (285 億円)	42 腫瘍用薬 (191 億円)
65 歳以上 75 歳未満	794 億円 (+21 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(179 億円)	42 腫瘍用薬 (150 億円)	21 循環器官用薬 (126 億円)
75 歳以上	1,604 億円 (+128 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(287 億円)	21 循環器官用薬 (277 億円)	42 腫瘍用薬 (232 億円)

- (4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,937 円（伸び率+4.8%）で、最も高かったのは福井県（11,877 円（伸び率+8.8%））、最も低かったのは佐賀県（8,719 円（伸び率+5.0%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは福井県（伸び率+8.8%）、最も低かったのは福島県（伸び率+2.8%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注1)}	91.4 %	+4.7 %
薬剤料ベース（新指標） ^{注2)}	78.4 %	+9.6 %
後発品調剤率	80.3 %	+0.3 %

注 1) 〔後発医薬品の数量〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕) で算出。

注 2) 〔後発医薬品の薬剤料〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料〕 + 〔後発医薬品の薬剤料〕) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+4.6 %	+12.5 % (15 歳以上 20 歳未満)	▲0.4 % (70 歳以上 75 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	78.4 %	87.5 % (100 歳以上)	67.1 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	91.4 %	93.9 % (100 歳以上)	90.4 % (15 歳以上 20 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	815 億円 (+47 億円)	21 循環器官用薬 (250 億円)	11 中枢神経系用薬 (147 億円)	23 消化器官用薬 (92 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.8 億円 (+0.5 億円)	44 アレルギー用薬 (3.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.4 億円)	62 化学療法剤 (0.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	15.8 億円 (▲0.3 億円)	44 アレルギー用薬 (8.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.0 億円)
15 歳以上 65 歳未満	283 億円 (+13 億円)	21 循環器官用薬 (70 億円)	11 中枢神経系用薬 (69 億円)	44 アレルギー用薬 (27 億円)
65 歳以上 75 歳未満	160 億円 (+5 億円)	21 循環器官用薬 (60 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)	23 消化器官用薬 (18 億円)
75 歳以上	349 億円 (+28 億円)	21 循環器官用薬 (120 億円)	11 中枢神経系用薬 (55 億円)	23 消化器官用薬 (47 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~59）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,312 円	1,702 円(北海道)	1,119 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.1%	+4.6 % (奈良県)	▲2.3 % (鹿児島県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	91.4 %	94.6 % (沖縄県)	88.9 % (東京都)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	78.4 %	83.7 % (岩手県)	73.6 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	80.3 %	83.9 % (秋田県)	77.0 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和7年度9月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。